

いよいよ始まる高大連携講義 ~第1回は8月5日 13:30~

講義会場は神戸大学国際文化学部北の教育センターK棟 402号です!

連携通信でも紹介した通り、今年の連携講義は8月から始まります。夏休み中は特別に13:30から16:50まで2コマ連続で行われます。8月5日の始めにガイダンス(開校式、講義受講に当たっての諸注意、理、工、農学部の講義についての解説、事務連絡など)があります。大学内での施設利用などの注意がありますので話の内容をよく聞いておいてください。

受講生の皆さんは神戸高校の制服を着用し、遅刻・欠席しないように、講義開始5分前に着席し静かに待つこと。なお、筆記用具・ノート等が必要(当然)ですので忘れないうようにしてください。連携講義受講するにあたって次の注意を守ってください。

1. 神戸高校の制服を着用し、神戸高校生としての誇りをもって行動すること。
2. 受講前に講義室前部の机の上にある出席票に出欠記入する。
3. 講義アンケート記入用紙(神戸大学、神戸高校用の2種類)を受け取る。
4. 講義の資料を受け取る。(講義資料がある場合のみ)
5. 着席は自由席ですが、講義室前から詰めて着席する。
6. 講義が始まるまで静かに講義を待つ。(「長話をするときは外の廊下のベンチで」が礼儀)

なお、講義室までの道に不安がある人向けに、講義初回のみ引率サービスを行います。希望者は、8月5日12時50分に「六甲ケーブル下行き」バス停(阪急六甲駅南)に集合すること。

再生医療最前線:血管再生(日本経済新聞記事 2003.7.15 朝刊より)

現在日本での死因の高い病気とは、心筋梗塞、脳梗塞などだ。この病気の原因は血管が細くなり決戦が詰まり器官に血流が届かなくなり、血流が来ない器官が機能停止するため起こるものだ。

これらの病気の治療方法は傷んだ血流を確保できれば治癒する。血管拡張、血管再生の手法にはいろいろあるが、現在では、血管拡張の手術として「血管バルーン法」などが利用されている。

今回の新聞報道では血管再生という新しい手法の実現の研究成果を伝えるものだ。国立循環器病センター(大阪府吹田市)と京都大学などの共同チームが動物実験で血管再生に成功したというものだ。血管再生となればこれら病気の治療法として根本治療となり、画期的な治療方法だ。

この研究では次のような技術が使われた。細胞そのままを移植しても血管再生が難しかった。そこで、血管の元になる細胞の遺伝子を操作し、細胞の再生能力を高めた「改造細胞」を作る。その「改造細胞」を移植することで血管再生効率を飛躍的に高める。これがこの研究のねらいだ。遺伝子工学の技術の利用したこの技術を使って、血管を再生し、血流改善が出来たのだ。

生まれながらに高脂血症で早死にするラットを作り出す(動物愛護の皆さん、人間のために許してください!)。このラットを研究対象とする動物実験が行われ、このラットの50日後生存率を調べた。旧来の方法である「改造なし細胞」のみ移植した場合での50日生存率がたったの30%だったものが、遺伝子組み込み「改造細胞」の移植では80%に向上するという画期的なものだ。この効果的な治療法が人間の血管再生に有効かどうか、移植された人にたいする副作用的な要素がないかなど、これからの研究すべきものは多い。しかし、ガンにならぶ死因トップ級お病気である心筋梗塞・脳梗塞などの血管病治療として、人間に適用される日も近いのかもしれない。